

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「見せ方を工夫して書こう」 教材名「新聞を作ろう / 【コラム】アンケート調査のしかた」

2 単元の目標

比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（B(1)イ）

読者に伝える中心を決め、取材した材料を記事と段落に構成する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。 （〔知識及び技能〕(2)イ）	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B(1)イ）	①読者に伝える中心を決め、取材した材料を記事と段落に構成する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

読者に伝える中心を決め、取材した材料を記事と段落に構成する。この教材では、取材メモ・記事の構成図・自作新聞を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

回答数や割合は授業内で集計した値だけを使う。個人の情報を載せず、文章の中心と情報の順序を先に検討する。想定する難しさは、レイアウトだけを工夫し、記事の中心や根拠が曖昧になる。評価では、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えているかを、取材メモ・記事の構成図・自作新聞と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確認め、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～5	○誰に何を知らせるかを決めて学校内の題材を調べる。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	6～9 （本時）	○誰に何を知らせるかを決めて学校内の題材を調べる。事実・感想・質問への答えを分類し、記事ごとの中心と段落を考える。質問の聞き方で答えが変わらないかも確認め、紙面を読み合って直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	10	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確認めたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (6/10)

(1) 本時の目標

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(B(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「この見出しの下には、どの事実をどの順に置くと伝えますか」 【めあて】読者に伝える中心を決め、取材した材料を記事と段落に構成する。 〈予想される児童の反応〉 ・見出しと中身が合っていない記事がある。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この見出しの下には、どの事実をどの順に置くと伝えますか」 誰に何を知らせるかを決めて学校内の題材を調べる。事実・感想・質問への答えを分類し、記事ごとの中心と段落を考える。質問の聞き方で答えが変わらないかも確かめ、紙面を読み合って直す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・見出しと中身が合っていない記事がある。 ・同じ情報はまとめられる。	回答数や割合は授業内で集計した値だけを使う。個人の情報を載せず、文章の中心と情報の順序を先に検討する。 想定する難しさ：レイアウトだけを工夫し、記事の中心や根拠が曖昧になる。 評価では、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えているかを、取材メモ・記事の構成図・自作新聞と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 取材メモ・記事の構成図・自作新聞を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ情報はまとめられる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この見出しの下には、どの事実をどの順に置くと伝わりますか」。中央は、取材メモ・記事の構成図・自作新聞に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

